

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	<u>8</u>
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		<u>1</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		<u>5</u>
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		<u>6</u>
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
<u>合計</u>		<u>20</u>

事業所番号	1475500821
法人名	株式会社 愛誠会
事業所名	はなまるホーム有馬
訪問調査日	2015年8月26日
評価確定日	2015年9月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475500821	事業の開始年月日	平成17年4月1日
		指定年月日	平成17年4月1日
法人名	株式会社 愛誠会		
事業所名	はなまるホーム有馬		
所在地	(216-0002) 川崎市宮前区東有馬5-21-24		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成27年8月10日	評価結果 市町村受理日	平成27年11月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

はなまるホーム有馬は川崎市郊外にある自然豊かで静かで、認知症を患った方が穏やかに生活できる環境にあります。商店街もあり買い物に行き、馴染みの店主との会話を楽しんだり、又団地が近所にあり道を行きかう人との挨拶や会話で社会との関係も築くことが出来ています。施設の存在を外部の方へアピールすることで、利用者様のニーズに合わせた社会資源を活用し利用者様がその人らしく、楽しく、穏やかに生活していけるように支援しています。又看取り介護も行っており、その人らしい最期を迎えられるよう利用者様、ご家族との信頼関係を築き職員の看取りに関する教育も行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Y ビル2F		
訪問調査日	平成27年8月26日	評価機関 評価決定日	平成27年9月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●事業所の経営はアイセイ薬局グループの(株)愛誠会です。アイセイ薬局グループは、薬局を全国展開し、首都圏に(株)愛誠会の運営する介護・福祉事業、社会福祉法人が運営する障がい者自立支援事業を展開しています。神奈川県では川崎市宮前区に2事業所を展開しており、その中の1つが「はなまるホーム有馬」です。この法人グループには社是・企業理念があり、年度方針に沿って事業所毎に展開して実施する体制が確立されています。事業所は東急田園都市線・鷺沼駅からバスで10分程度の「東有馬第一団地前」で下車し、東有馬商店街の奥に位置しています。

●法人の社是「奉仕のこころで他者を愛する」に加え3つの理念があり、これらを踏まえて管理者は「その人らしさを大切に、利用者、ご家族と信頼関係を築く」を目標に掲げています。その人らしさを大切に、利用者が穏やかな生活を送る為には？を第一に考え、自身で行えることに関しては自立を促し、ADL低下の進行を緩和できるように取り組みながら、心のこもったケアを実践しています。

●地域との交流については、企業理念の中にも「地域社会との間に良好な環境を作る」を掲げており、地域住民の方を運営推進会議や行事への招待、商店会の活動に積極的参加したり、事業所の前に来る有馬記念病院行きの送迎バス待ちの方に椅子を提供するなど、地域との良好な関係作りに努めています。また、アリーノ（宮前区の福祉施設）を会場として行われる「みんなの福祉ネット」にも参加し、地域住民や行政、他事業所とも交流を図ることで地域社会にも貢献しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	はなまるホーム有馬
ユニット名	1 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念の中に「地域社会との間に良好な環境を作る」とあり運営推進会議では商店会役員様を招待し協力体制を仰いでいる又商店会にも加入し会合、夏祭の行事にも参加している。	法人の社是「奉仕のところで他者を愛する」に加え3つの理念があり、これらを踏まえて管理者は、「その人らしさを大切に、利用者、ご家族と信頼関係を築く」を目標に掲げています。申し送りやユニット会議でも常に、職員の主観で考えるのではなく、その人らしさを大切にすることを話し、職員に周知しています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の社会資源を活用し利用者様のニーズの解決に取り組んでいる近隣の商店街での買い物や外食など行っている	地域社会との良好な環境を作るとの基本理念のもと、地元商店街の活動にも積極的に参加しています。夏祭りでは同法人の障害者施設で作ったお菓子を販売したり、事業所の目の前に建っている団地の階段の上り下りを手伝いにスタッフが駆けつけて荷物を運ぶお手伝いをすることもあり、近隣住民の方からも感謝されています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で社会福祉を考える会があり参加し地域のニーズにこたえるための取組を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し現況報告、ご家族のご意見などサービスの中に取り込んでいる。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しています。現状は、市職員、包括支援センター職員の参加が、なかなか得られていないということもあり、商店街役員、ご家族、職員で実施しています。内容は現況や活動報告、地域行事のお知らせなどです。家族からの意見については、個別事項の内容が中心ですが、極力反映させるよう努めています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に良好な関係が築けるように報告、相談を行っている。	川崎市有馬・野生涯学習支援センターで活動している「みんなの福祉ネット」のメンバーや運営推進会議、市の高齢障害課の方々と情報交換を行っています。利用者の自立支援申請、登録更新手続きで窓口に行った際に報告や困難事例についての相談しています。また、高齢障害課から空き状況の問い合わせや入居者の紹介を受ける場合もあります。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の設置で身体拘束が利用者様に与える影響などを話し合い信頼関係を築く上で絶対あってはならないこととして会議などで全職員に周知徹底している	身体拘束委員会を設置し、毎月のユニット会議や申し送り時に、拘束に該当する事例や利用者及びご家族等に及ぼす弊害等について職員に話し、周知徹底しています。利用者や信頼関係を築くうえで、身体拘束はあってはならないことと自負しており、リスクがある方に対して「なぜか？」を全職員で考え早期に課題を解決できるように努めています。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して重要性を学んでもらっている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して重要性を学んでもらっている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、必ず契約書・重要事項説明書の読み合わせを行い、理解して頂くよう努めている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回外部評価を行い、評価内容をお知らせしている	ご家族からの意見・要望に関しては、来訪時に利用者の様子を伝えた際に伺ったり、毎月送付している請求書、事業所便りと併せて手紙を同封しています。事業所便りにスタッフが近況を一言添えていることで、ご家族からお礼の電話等を頂くこともあります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議、全体会議で職員からの意見、提案など話し合い取り入れている、本社会議などで反映できるように努力している	管理者は日頃から、職員とのコミュニケーションを心がけ、忌憚のない意見を言える雰囲気作りに努めています。毎月のユニット会議、2ヶ月に1回の全体会議では、ユニット会議で出た意見を発表してもらい、検討した後に業務に反映させています。最近では投葉の際のチェック体制の見直しを行いました。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じ評価している。研修や業績で各自意欲向上を図っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で行われるスキルアップ研修や中途者研修又川崎市で行っている研修など職員個々のスキルにより受講をすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の活動や連絡会を通し交流を行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人と面会し必要なニーズを本人、ご家族、ケアマネなどから情報を把握しご本人が不安無く生活できるように支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人と面会し必要なニーズを本人、ご家族の意見などご家族の不安にも答えられるように努力しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前にご本人と面会し必要なニーズを本人、ご家族の意見などご家族の不安にも答えられるように努力しています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が頼れる、安心できる存在になれるようにするとともに、働くではなくとも暮らすという意識ですごして行くことを徹底しています			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中で制限をせず（面会、外泊など）後家族にしか出来ない事は積極的に提案し絆を大切にしています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベント開催時ご家族やご友人なども招待し、いつでも面会できるように対応しています。	毎年恒例で開催している季節の行事の際にはご家族だけでなく、友人等にも招待状を送り、参加いただいています。去年の秋祭りでは、商店街や業者の方の協力を得て、事業所内に「お買い物コーナー」を設け、家族や友人と会話を楽しみながら買い物をしたりと盛大に行われていました。ご家族が来て家に帰られる方や近所の美容院に行っている方もいます。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を考慮して席の配置などを決めている、又、レクリエーションを通してコミュニケーションが良好になるように職員が間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ対応している。又いつでも連絡するように必ず伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	随時アセスメントを行い、本人が快適に生活できるようにしている	入居時のアセスメントで、本人の今までの生活歴やご家族からの情報を基に、日々の支援の中で思いや意向を把握するように努めています。本人から聞かれた言葉や行動は個人記録や申し送りに記録し、極力利用者の思いや意向を叶えられるように支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話を良く傾聴し、要望などを言いやすい環境や要望をかなえるための努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の変化を日々申し送りで把握し必要に応じてケアカンファレンスを開催し変化に伴った対応や解決策を話し合いなど行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの際、ご本人、ご家族をはじめ関係機関からの意見を聞き、本人の意思が反映できるように計画作成を行っている。	ケアの中で気づいた事は介護記録と申し送りに記録し、職員間で情報を共有しています。また、本人やご家族からの要望、職員の意見、生活記録等を基にカンファレンスを行い、医師や看護師の意見を盛り込んで現状に即した介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子を個別記録に記入すると共に、連絡帳、申し送り等で情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応できるように、柔軟な姿勢で取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療機関の協力体制、ボランティアの受け入れなどを通じ安全で豊かな生活が出来るように支援していきます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、協力医療機関の往診で対応していますが、入居後もかかりつけ医療機関を継続したいの要望があればその医療機関と良好な関係を築いていきます。	入居時にかかりつけ医の確認の有無を行い、かかりつけ医がある方には継続して受診が出来るよう支援しています。内科医往診が月2回、歯科医は毎週往診に来て頂いています。また、看護師巡回が週2回あるので、利用者の安心に繋がっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への申し送りの徹底や利用者様のいつもと違うに対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーの作成や日常の様子など情報提供を行っている。入院中医療機関と連携をとり何度も通い、早期退院に向けた調整を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時アセスメントを行い、本人、ご家族の終末期に向けた意見を聞き希望に添える終末期を迎えられるよう支援しています。	事業所では看取りを行うことを入所時に、ご家族と本人に説明しています。ご家族と本人の意向を伺った上で基本方針を決め、ご家族と本人の意向に沿った支援を行っています。終末期が近づいてきた段階で、医師、ご家族、職員、看護師で話し合っ方向性を確認し、看取りを行う際は改めて看取り計画書を作成し、職員間で情報を共有したうえで、チームケアで取り組んでいます。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、医師や看護師へ報告指示を仰ぎ対応出来る体制を整えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災、防火訓練を行い職員の意識向上に努めています。又運営推進会議などで地域の住民への協力体制などお願いしています。	年2回の自主訓練は出来ていますが、今後は消防署立ち会いの下、指導や訓練を実施する予定にしています。近隣の支援体制については運営推進会議でも議題として採りあげていますが、現状では協力体制までは構築できていないので、引き続き協力を呼び掛けています。備蓄品に関しては法人から支給されており、食料、水、缶詰、ヘルメット、懐中電灯を倉庫に保管しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部研修や社内研修により尊厳の保持や重要性を周知徹底しています。	法人での研修体制が整っており、法人から送られてくる研修資料には、法令厳守から介護技術に至るまでマニュアルがあり、カンファレンスや内部研修の際に人権の尊厳やプライバシーの重要性について周知しています。外部研修費は本部負担で受けることが出来るということもあり、管理者は参加を勧めています。ケアに関すること以外にも、利用者間のトラブルが発生した場合には、管理者を交え対処法を職員間で話し合って検討し解決に努めています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の生活のリズムを壊さないように日々のケアスケジュールを無理のないように検討しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせ介護者都合の介護は行わず、利用者様の希望によりケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様自身で着たい服を選び、化粧水、乳液など用意している。又イベントなどにはメイクできるようメイクセットも用意している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	得意料理を調理できる環境を作ったり、車いすでも参加できる、ホットプレートでのおやつ作りや餃子作りなど行っている。	メニューは職員が考え、生鮮食品は買い物に行ったり、巡回販売車が来た時に利用者と一緒に買いに行きますが、その他の食材は業者に発注をかけています。ホットプレートを使って作れる料理は、利用者にも参加してもらい楽しんで調理しています。行事の際にはリクエストを聞き、出前を注文することもあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を毎日チェックし状況の把握を職員全員が行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや週1回の訪問歯科にて必要なケアの方法を指導していただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を記入することにより、排泄リズムの把握、自立に向けた声かけなど行っています。	排泄チェック表を用いて、個々の排泄パターンの把握に努めています。夜間帯においても、極力トイレ誘導を行いトイレでの排泄を促しています。リハビリパンツを使用している方もいますが、極力トイレ誘導を行い、自立排泄出来るように支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物などでの対応のほかに、マイナス3日にて、ナース対応で個々に応じた対応を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否のある方は無理に勧めないで、声かけの工夫を行い気持ち良く入浴して頂くよう努めています。又何時と決めず臨機応変に対応しています。	週2回を目安に、入浴時間を設けず入浴していただけるように支援しています。現在使用頻度は少ないですがリフト浴も完備され、重度化した際の職員、利用者の負担を軽減する役割を担っています。入浴拒否が強い場合は無理強いせず、声かけや担当職員を変える等の工夫を行っています。また、ドライシャンプーを用いて、入浴を誘ったり、入浴剤を用いていつもと違う雰囲気を出すことで、気持ち良く入浴出来るように努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間に取り決めはなく個々の時間に合わせて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の効果、副作用など医師より説明をうけ、又、誤薬に関する勉強会など行い事故防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や外食、ドライブなど気分転換になる行事を定期的で開催し外出支援を行っています。		
49	18	○日常的な外出支援	食材の買い物や外気浴など外の空気を吸う時間を設けている。また、地域の盆踊りなど会場に場所を設けるなど、家族や地域の方と協力頂きながら参加出来ている。	近隣に農園を営んでる方や、梨畑や柿畑等もあり、季節毎に移り変わる季節の変化を楽しみながら散歩に出かけたり、近くのお店へ食材の買い物やファミリーレストランに外食に行くこともあります。また、地域の盆踊りの際には事業所の前をスペースとして提供して、利用者が参加出来るようにしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお子遣いを金庫に保管させて頂き外出時にご本人のほしい物が買えるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限無く自由に使用していただいている。手紙は本人に代わり代筆する支援も行っている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけや利用者様にわかりやすい表札など表記している	建物は吹き抜けになっている中庭を中心とした、回路式の構造になっています。共有空間は、ゆとりを持たせた造りになっており、食卓、ソファ、テレビ、テーブルが配置されている他、小上がりの和室が設られています。食後にソファで手芸をしたり、テレビを観るなど思い思いに過ごしています。基本的にはシンプルな飾りつけにしていますが、季節や行事に合わせて装飾を行い季節感を感じれるように工夫しています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲間同士くつろぎ楽しい空間になるよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が使いやすい物、なじみのあるものを入居時に持参していただいています。	居室の備品としてクローゼットと洗面台、ベッドがあり、ご家族には利用者と話し合っ、使い慣れた物や想いで品を持ち込んでもらっています。居室内は利用者職員が協力して整理整頓や清掃を行っており、清潔保持に努めています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路など障害物がないように、又手すりなどを使い安全で歩行できる環境作りをしています。			

目 標 達 成 計 画

事業所

はなまるホーム有馬

作成日

平成27年8月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	スキルアップの為に勉強会の開催数が少ない	年4回以上の開催	年間スケジュールに組み開催する	通年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	はなまるホーム有馬
ユニット名	2 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念の中に「地域社会との間に良好な環境を作る」とあり運営推進会議では商店会役員様を招待し協力体制を仰いでいる又商店会にも加入し会合、夏祭の行事にも参加している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の社会資源を活用し利用者様のニーズの解決に取り組んでいる近隣の商店街での買い物や外食など行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で社会福祉を考える会があり参加し地域のニーズにこたえるための取組を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し現況報告、ご家族のご意見などサービスの中に取り込んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に良好な関係が築けるように報告、相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の設置で身体拘束が利用者様に与える影響などを話し合い信頼関係を築く上で絶対あってはならないこととして会議などで全職員に周知徹底している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して重要性を学んでもらっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して重要性を学んでもらっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、必ず契約書・重要事項説明書の読み合わせを行い、理解して頂くよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回外部評価を行い、評価内容をお知らせしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議、全体会議で職員からの意見、提案など話し合い取り入れている、本社会議などで反映できるように努力している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じ評価している。研修や業績で各自意欲向上を図っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で行われるスキルアップ研修や中途者研修又川崎市で行っている研修など職員個々のスキルにより受講をすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の活動や連絡会を通し交流を行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人と面会し必要なニーズを本人、ご家族、ケアマネなどから情報を把握しご本人が不安無く生活できるように支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人と面会し必要なニーズを本人、ご家族の意見などご家族の不安にも答えられるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前にご本人と面会し必要なニーズを本人、ご家族の意見などご家族の不安にも答えられるように努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が頼れる、安心できる存在になれるようにするとともに、働くではなくとも暮らすという意識ですごして行くことを徹底しています		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中で制限をせず（面会、外泊など）後家族にしか出来ない事は積極的に提案し絆を大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベント開催時ご家族やご友人なども招待し、いつでも面会できるように対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を考慮して席の配置などを決めている、又、レクリエーションを通してコミュニケーションが良好になるように職員が間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ対応している。又いつでも連絡するように必ず伝えている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	随時アセスメントを行い、本人が快適に生活できるようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話を良く傾聴し、要望などを言いやすい環境や要望をかなえるための努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の変化を日々申し送りで把握し必要に応じてケアカンファレンスを開催し変化に伴った対応や解決策を話し合いなど行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの際、ご本人、ご家族をはじめ関係機関からの意見を聞き、本人の意思が反映できるように計画作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子を個別記録に記入すると共に、連絡帳、申し送り等で情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応できるように、柔軟な姿勢で取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療機関の協力体制、ボランティアの受け入れなどを通じ安全で豊かな生活が出来るように支援していきます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、協力医療機関の往診で対応していますが、入居後もかかりつけ医療機関を継続したいの要望があればその医療機関と良好な関係を築いていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への申し送りの徹底や利用者様のいつもと違うに対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーの作成や日常の様子など情報提供を行っている。入院中医療機関と連携をとり何度も通い、早期退院に向けた調整を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時アセスメントを行い、本人、ご家族の終末期に向けた意見を聞き希望に添える終末期を迎えられるよう支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、医師や看護師へ報告指示を仰ぎ対応できる体制を整えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災、防火訓練を行い職員の意識向上に努めています。又運営推進会議などで地域の住民への協力体制などお願いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部研修や社内研修により尊厳の保持や重要性を周知徹底しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の生活のリズムを壊さないように日々のケアスケジュールを無理のないように検討しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせて介護者都合の介護は行わず、利用者様の希望によりケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様自身で着たい服を選び、化粧水、乳液など用意している。又イベントなどにはメイクできるようメイクセットも用意している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	得意料理を調理できる環境を作ったり、車いすでも参加できる、ホットプレートでのおやつ作りや餃子作りなど行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を毎日チェックし状況の把握を職員全員が行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや週1回の訪問歯科にて必要なケアの方法を指導していただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を記入することにより、排泄リズムの把握、自立に向けた声かけなど行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物などでの対応のほかに、マイナス3日にて、ナース対応で個々に応じた対応を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否のある方は無理に勧めないで、声かけの工夫を行い気持ち良く入浴して頂くよう努めています、又何時と決めず臨機応変に対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間に取り決めはなく個々の時間に合わせて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の効果、副作用など医師より説明をうけ、又、誤薬に関する勉強会など行い事故防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や外食、ドライブなど気分転換になる行事を定期的で開催し外出支援を行っています。		
49	18	○日常的な外出支援	食材の買い物や外気浴など外の空気を吸う時間を設けている。また、地域の盆踊りなど会場に場所を設けるなど、家族や地域の方と協力頂きながら参加出来ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお子遣いを金庫に保管させて頂き外出時にご本人のほしい物が買えるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限無く自由に使用していただいている。手紙は本人に代わり代筆する支援も行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけや利用者様にわかりやすい表札など表記している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲間同士くつろぎ楽しい空間になるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が使いやすい物、なじみのあるものを入居時に持参していただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路など障害物がないように、又手すりなどを使い安全で歩行できる環境作りをしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所

はなまるホーム有馬

作成日

平成27年8月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	スキルアップの為に勉強会の開催数が少ない	年4回以上の開催	年間スケジュールに組み開催する	通年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。